

大学評価の社会への貢献： ノルウェーにおける大学評価

Professor Roger K. Abrahamsen
Norwegian University of Life Sciences
Chairman of the Board of NOKUT



はじめに

- 「大学評価の社会への貢献」
- 主催者から与えられたテーマ
 - 北欧諸国の大学評価が目指すもの
 - 政府、大学、質保証機関はどのように大学評価のアカウンタビリティに対応すべきか
 - 大学が評価結果をどう改善に活かすべきか

NOKUTが実施している評価の種類

- 質の監査(高等教育機関の質保証システムに関する評価)
- 設置認定
 - 機関の認定
 - プログラム／コースの認定
- 認定の見直し
- 高等教育の質の評価の重要性についての評価



13

NOKUTが実施している評価

- 評価はすべて、外部委員会もしくはNOKUTが設置した専門家委員会が実施。委員会の委員長職のみNOKUTの幹部
- 委員会および専門家委員会からの報告はすべて公開
- 報告書は包括的で、高等教育機関の基本情報や提言並びに公式結論の形による詳細な評価結果を提示している
 - 報告書は高等教育機関が質の向上に取り組むための重要なツールである
 - 高等教育機関は概して報告内容に大いに満足し、非常に実用的であると表明
 - 高等教育機関は提言内容に高い関心を抱いている



14

質の監査

- 教育機関は適正な内部質保証制度を整備することが、法律によって求められている
- NOKUTは内部質保証制度を最長で6年おきに監査
 - 教育機関の質監査は、高等教育の質に対する外部精査の体系的かつ総合的なメカニズムといえる
- 高等教育機関自らが教育内容の質に責任をもつ
 - 内部質保証を着実にを行うことは自らの利益に適う
 - 高等教育機関は内部に質の文化を築く可能性を得られる



15

質の監査

- 教育機関は基準となる枠組みの範囲内で自由に保証体制を考案できる
- 外部の質の評価
 - 内部質保証が効果的に満身に機能しているかどうかを評価する
 - 内部質保証がどうあるべきかを指示してはならない
- 独自の質保証制度を築く自由が与えられているということは、教職員や学生の当事者意識を高めるとともに幅広い参加を促すと考えられる



16

質の監査

- 質保証制度の評価の目的は、教育機関が自らの教育内容について行う質の評価を監査することである
- 質の監査は認定の取り消しには直接つながらない
 - しかし、質の不備が明らかになる
 - NOKUTは明らかになった点について、認定の見直しでフォローアップする場合がある
 - 教育機関の質の監査と認定の見直しとの関連性は、ノルウェーの評価システムの中心的な柱といえる

◇
◇
◇
◇
◇
◇
17

質の監査

- 質保証制度は、教育機関が教育の向上に継続して取り組むための手段として活用されるべき
- 改善への取り組みについて学生にフィードバックすることが不可欠
 - 教育機関と学生間の信頼感の向上
 - 学生が改善を認識すれば、教育の質の向上により重要な役割を果たす可能性がある
- 教育機関が信頼に足る質保証制度を確立・運営するということは、社会がノルウェーの高等教育機関に求める信用、信頼にとって、非常に重要であるかもしれない

◇
◇
◇
◇
◇
◇
18

設置認定：高等教育機関の認定

- 高等教育機関の認定は、機関の地位の変更を可能とする手段である
- NOKUTは教育機関の地位の変更申請に基づいて認定を実施する
- 目的は学問的拡大
- 例えば、総合大学への昇格を望むユニバーシティ・カレッジは、能力と質を高める必要があり、そのプロセスを通じて次のような影響をもたらす可能性がある
 - 政府レベルで追加的資源を割り当てようという政策的意志が生まれる
 - 地域、地元の政治家、社会や産業界から、支援の動きが出る
 - 地域の能力基盤が拡大する
 - 地域のイノベーションや新たな職業活動が生じる

19

初期認定：プログラム／コース認定

- 学習プログラムの認定は新規プログラムの基準を確保するための手段
- 教育機関が、その教育機関の地位では自動的に設置することが認められていない新規のコースまたはプログラムの認定を申請すると、NOKUTが認定を実施する
- 認定を受けていない高等教育機関は、すべてのレベルで新しい提供内容について認定手続きを経なければならない
- ユニバーシティ・カレッジは、学士レベルを超える新しいプログラム／コースについて、認定を受けなければならない
- 総合大学と単科大学(例：獣医学校)は、特定のプログラム認定を受けずにすべてのレベルの学位を授与する権利を完全に有している。

110

高等教育機関の自律性

	総合大学	単科大学	認定されたユニバーシティ・カレッジ	未認定機関
博士				
修士				
学士				

- あらゆる学習プログラム(学士、修士、博士)を設置する権限を持つ
- 権限が限定されている。認定と教育研究省の最終決定を受けなければ学習プログラムを提供できない

111

初期認定:プログラム/コース認定

- 学生が政府の奨学金を受けられるようにするには、プログラムが認定されていることが必要
- 新規プログラムの認定は、ノルウェー政府も署名しているポローニャ・プロセスの重要な要件
- ノルウェーは高等教育の質を国際レベルにするという、国家的、政治的、機関的な目標を定めており、認定はこの目標を達成するための重要な手段と考えられていると言える
- 自分たちが学ぶプログラムが認定を受けていることを知るのには、学生にとって重要であると考えられる
- 新規プログラムの認定は、教育機関に対する社会の信頼度を高める

112

認定の見直し

- プログラムの認定の見直し
- 機関の認定の見直し
- さまざまな状況を踏まえて、NOKUTは一度与えた認定の見直しを目的として、機関やプログラムの評価を行う。見直しの結果、認定取り消しと判断される可能性がある。これに従って教育研究省は、認定に伴って付与される権利を取り消す
- 見直しは、質保証制度の監査や、質の不備を示すその他の状況がきっかけとなりうる
- 見直しは無作為抽出によって行われる



| 13

認定の見直し

- 認定はモニタリングの手段というだけではない
- 専門家委員会からの報告書は、機関がどのように質を最低レベルから引き上げることができるかについての提言を含んでいる
- これまで教育機関は専門家の提言に従っている
- 認定は高等教育の継続的な改善という目的を実行する上で、重要な手段である
- プログラムまたは機関の認定取り消しという決定が下されると、再認定に相応しい質を確保するために、相当な取り組みが必要となる



| 14

高等教育の質の査定の重要性に関する評価

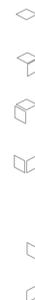
- NOKUTは、ノルウェーの高等教育の質について知識を深める観点から、有用と思われる他の形式の評価の実施を決定できる
- 教育研究省がNOKUTにそのような評価の実施を指示することもできる
- これらの評価では、NOKUTは質管理を目的とはしない。それに応じて評価対象機関との関係も変化する
- 目的がもっぱら「よりよく知る」ことである場合、参加機関はNOKUTのプロジェクトパートナーとなる



| 15

高等教育の質の査定の重要性に関する評価

- 教育研究省と教育機関にとって、高等教育の向上に向けた意志決定や資源配分における重要な情報源
- NOKUTにとって、プログラムや教育機関の認定の見直しが必要であるかを判断する基礎となる



| 16

結論の概要

- 高等教育のさまざまな質保証制度の評価が、高等教育の質の開発に対する関心を高めている
 - 国にとって重要
 - 学生にとって重要
 - 高等教育機関にとって重要
- 包括的な質保証制度と評価手段は、以下の点をもたらす
 - 社会と教育機関との信頼感の強化
 - 社会と教育機関との関係の強化
 - 産業界と教育機関との関係の強化
 - 教育機関・政府の各レベルでの資源配分に関する、意志決定のための基盤の強化
 - その他の政治的判断のための基盤の強化
 - 高等教育の国際化の可能性の増大
- 高等教育に適切な質保証制度がなければ、近代社会に対する学生、政治家の信頼が失われることになる

